

協働パイロット事業 (H20) 企画提案書

(様式2)

1. 事業の名称

団体名：静岡市地球温暖化対策地域協議会

台所から始まるストンプ温暖化

——静岡市における廃食用油回収・BDF化仕組みのモデル作り事業——

2. 事業方針 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください)

静岡市にある静岡油化工業(株)は15000/日のBDF製造プラントを有し、さらに30000/日の増産が可能になり、静岡県東部のBDF製造拠点となっている。しかし、静岡市域では業務用を除いて、一般家庭からの廃食用油は回収されず捨てられているのが現状である。地域エネルギー資源の活用による「清流の都しずおか」創造事業の一つとして、静岡油化工業(株)ではBDF製造プラントの増設が進行中である。このような状況下で静岡市の各家庭から排出される廃食用油を回収してBDFの製造原料として有効活用する仕組みのモデル作りを行い、併せてBDFの普及と二酸化炭素の排出削減に寄与する。また、この事業はごみとして処理される地域の有用資源を活かし、住民参加型的方式をとることで市民の環境意識の啓発と持続可能な低炭素型社会づくりに貢献する。

3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

地域協議会は話し合いを通して協力スーパーマーケットと自治会の選定を行ない、具体的な廃食用油回収のモデル仕組みづくりを行う。廃食用油の回収方式として、市内のスーパーマーケットを回収拠点とする「スーパーマーケット回収方式」と学区また自治会のある地域で、資源集積所へ住民が持ち寄る「住民型回収方式」を検討している。

「スーパーマーケット回収方式」は回収日を月1回とし、当日に当会のメンバーが立会い、のぼり旗を立てパンフレットや廃油石鹸を配布し啓発する。回収日をスーパーマーケットの廃油を回収している回収日に併せることで、静岡油化工業(株)の回収負担を減らす。

「住民型回収方式」の回収方法については、回収量が少ないと考えられるので当会のメンバー及び町内会の廃棄物減量等推進員に運搬の協力をお願いして回収し、場合によってはBDF製造施設に持ち込む。行政にはスーパーマーケットや自治会およびBDF製造施設が協力しやすい環境づくりと、法的問題および側面からの協力要請および資金面での協力を期待したい。

4. 成果目標 (できる限り具体的に表現してください)

「スーパーマーケット回収方式」および「住民型回収方式」の廃食用油回収・BDF化実証・実験的取り組みは3ヶ月間行い、その回収総量3000を目標とする。そしてこのBDFの利用促進を市のゴミ収集車、トラック協会およびしずかつジヤストライオンなどに積極的に働きかけ、BDFの利活用システムを来年3月末までに確立されることを成果目標とする。

5. 事業計画

本事業における協力スーパーマーケットおよびBDF製造施設として、「しずてつスター」と「静岡油化工業(株)」を予定している。静岡市は昨年、環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」の採択を受け、「清流の都しずおか』創造推進事業を立ち上げたが、「しずてつスター」は環境配慮型スーパーマーケットモデル事業のスーパーとして、また静岡油化工業(株)はBDF燃料製造事業の施設としてもに指定され、交付金を受けた環境配慮型の企業である。創造推進事業の成果を地域社会に還元するためにも、両企業の参加・協力をお願いしたい。

廃食油の回収は、市内のスーパーマーケットを回収拠点とする「スーパー型回収方式」と学区または自治会のある地域で、資源集積所へ住民が持ち寄る「住民型回収方式」の2方式を検討する。

廃食油回収・BDF化モデル地域づくりの確立を以下のとおりに行う。

- ① 住民向け講演および説明会 2回
- ② 住民型回収方式 3ヶ月間の実験・検証
- ③ スーパー型回収方式 3ヶ月間の実験・検証

両方式とも、回収実施初期には実施をスムーズにするため当会が回収支援、実施状況の把握を行い、事業の改善・定着に努める。

0

6. スケジュール

7月～9月	①「スーパー型回収方式」の実施に向けて調整・準備打合せ
8月～9月	②学区・町内会向けの講演会を2学区で開催
7月～9月	③「住民型回収方式」実施打合せ (町内会、当会、必要に応じて静岡油化、個別または合同打合せを逐次実施。年度内実施町内は3～4町を予定。)
9月～10月	④「スーパー型回収方式」実施打合せ
9月～12月	⑤「住民型回収方式」回収実験の実施開始 3ヶ月間
11月～12月	⑥「スーパー型回収方式」回収実験の実施開始 3ヶ月間
2009年 1月～2月	⑦「スーパー型回収方式」、「住民型回収方式」実施の問題点、改良点の把握とフィードバック
2月	⑧報告書作成

7. 実施体制および主要スタッフの経歴

実施体制

総括	高木恵子	ボランティアスタッフ	里見亜希子
企画		小林富二男、高木恵子、小林義明	
会計	藤田 修身		
実行委員、	全会員		

主要スタッフの経歴

会長	小林 義明 (NPO 法人緑の地球 代表)
副会長	小林 富二男 (静岡市 地球温暖化対策地域推進計画策定委員)
副会長	高木 恵子 (NPO 法人静岡 RVW 代表)
会計	藤田 修身 (NPO 法人緑の地球 理事)
運営委員	関 正次 (NPO 法人緑の地球 副代表)
〃	青木 茂 (中小企業経済同友会 幹事)
〃	藤浪 光恵 (NPO 法人静岡 RVW 副代表)
〃	長野 蝶子 (はなみずきネットワーク清水 代表)

町内会・スーパーマーケット等普及担当
 ボランティアスタッフ 里見 亜希子 (NPO 法人静岡 RVW)

8. 特にアピールしたいこと (専門性、独自性、先駆性、実績など)

「スーパー型回収方式」は国内ではまだどこでも行われていない方式で、成功すれば廃食油回収方式の新しいモデルとなりうると思われる。またこの方式を協カスパー中心に増やすことにより回収地域を徐々に広げることができ、モデル事業として最適であると考えられる。

また、本事業を実施するに当たり以下のような公益的メリットが考えられる。

- 1) 家庭で廃棄していた廃食油を有効活用できる
- 2) ごみ処理費削減効果が期待できる
- 3) 化石燃料に換わるエネルギーとして利用できる
- 4) 二酸化炭素の削減につながる
- 5) 化石燃料が高騰の折から経済的メリットもある
- 6) 協力者に再資源化と地球温暖化防止への社会貢献が実感できる
- 7) 環境保全への意識啓発につながる

協働パイロット事業 (H20) 見積書

団体名：静岡市地球温暖化対策地域協議会

企画のタイトル： 台所から始まるストッフ温暖化
 —静岡市における廃食用油回収・BDF化仕組みのモデル作り事業—

項目	金額	説明
講師謝金	20,000	講師謝金 10,000 円×2 回分
会場借料	20,000	打合せ会等 5,000 円×4 回分
打ち合せ会 (交通費含)	20,000	2 団体×4 回×5 人×500 円
回収支援活動費	80,000	2 団体×4 回×20 人×500 円
通信運搬費、 事務管理費、 消耗品費、 調査費	10,000 20,000 28,000	説明資料等送付 文具類、コピー代、FAX 代など プリント用紙、インク代、廃油石鹸など 調査のための交通費、写真代、報告書 作成費など
小計 A	238,000	
消費税 B = A×0.05	11,900	
合計 A+B	249,900	

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な使途

企画提案の概要書

提案団体名	静岡市地球温暖化対策地域協議会
企画案のタイトル	台所から始まるストツヅ温暖化 ー静岡市における廃食用油回収・BDF 化仕組みのモデル作り事業ー
提案の要旨 (企画提案書の概要を400時以内で ご記入下さい。)	<p>静岡市にある静岡油化工業(株)は 1500 0/日(近く 4500 0/日に増強)の BDF 製造プラントを有し、静岡県 of BDF 製造拠点となっている。しかし、静岡市域では業務用を除いて、家庭廃食用油は回収されず捨てられているのが現状である。この状況下で家庭廃食用油を回収して有効活用することは CO2 の排出削減への寄与とともに、市民の環境意識の啓発と持続可能な低炭素型社会づくりに貢献するものと考えられる。</p> <p>廃食用油の回収方式は、スーパーマーケットを回収拠点とする「スーパー型」と地域の資源集積所へ住民が持ち寄り「住民型」とし、両方式の特徴を活かして回収の効率化を図る新たな試みを行う。</p> <p>行政にはスーパーマーケットや自治会、BDF 製造施設が協力しやすい環境づくりの側面からの支援と、資金面での協力を期待したい。本事業の目標は静岡市域における家庭廃食用油回収の基礎固めにある。</p>
金額	249,900 円